

第 2 章 水 質 汚 濁

第 1 節 公共用水域の水質汚濁の現況

県内の公共用水域について、水質汚濁防止法に基づき水質測定計画を定め、関係機関（建設省、通商水産省、通商産業省、鳥取市、倉吉市、米子市）の協力を得て、水質の測定を行った。

対象水域の概要図は資料26に示す。

1 人の健康の保護に関する項目〔健康項目等〕

〔カドミウム、シアン、有機燐、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB、トリクロエチレン、アトフクロエチレン〕

38河川108地点1,785検体、4湖沼16地点341検体及び2海域16地点228検体、合計140地点2,354検体について測定を行った。その結果、前年度と同様に全検体が環境基準水質環境目標に適合しており県内の公共用水域は全水域とも清浄であった。

なお、検体数の算定についてはカドミウム、シアン等の各項目を1検体として扱っている。

（測定対象公共用水域）

河川	千代川水系	千代川、旧袋川、孤川、山白川、天神川、湖山川、枝川、野坂川、新袋川、有富川、大路川、砂見川、八東川、私都川、佐治川
	天神川水系	天神川、国府川、小鴨川、鴨川、玉川、絵下谷川、鉢屋川、三徳川、加茂川
	日野川水系	日野川、法勝寺川、板井原川
	二級河川	蒲生川、塩見川、河内川、勝部川、由良川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川
	斐伊川水系	旧加茂川、新加茂川、大正川
湖沼	湖山川池、多鯨ヶ池、東郷池、中海	
海域	美保湾、日本海沿岸	

表 49 人の健康の保護に関する環境基準（昭46.12.28 環境庁告示第59号）

項目	カドミウム	シアン	有機燐	鉛	クロム (六価)	ヒ素	総水銀	アルキル 水銀	PCB
基準値	0.01 mg/ℓ 以下	検出され ないこと	検出され ないこと	0.1 mg/ℓ 以下	0.05 mg/ℓ 以下	0.05 mg/ℓ 以下	0.0005 mg/ℓ 以下	検出され ないこと	検出され ないこと

表50 公共用水域による水質環境目標（平14.3 環境庁水質保全局長通知）

項 目	トクロエチレン	アトフクロエチレン
水 質 環 境 目 標 値	0.03 mg/ℓ以下	0.01 mg/ℓ以下

2 生活環境の保全に関する項目〔生活環境項目〕

河 川 : pH、BOD、SS、DO、大腸菌群数

湖 沼 : pH、COD、SS、DO、大腸菌群数、全窒素、全りん (注)用語の解説は資料33を参照のこと

海 域 : pH、COD、油分、DO、大腸菌群数

(1) 概 要

主要水域の水質汚濁状況の概要を、生活環境項目の代表的指標であるBOD（河川に適用）又はCOD（湖沼、海域に適用）で見れば、次のとおりである。

〔注〕本白書では、BOD及びCODの評価について、環境基準の類型をあてはめている水域に対する環境基準の達成状況、又はその他の水域に対する基準相当類型の評価に関しては75%値（表50注を参照）を適用し、水質の汚濁状況、水質の経年変化等の評価には、年平均値を用いている。

〔河川〕

一級河川（千代川、天神川、日野川）の水質は、おおむね下流部は環境基準に定める河川類型A（表53参照、以下同じ）上流部は河川類型AAに相当しており清浄な水質を維持している。

二級河川（蒲生川、塩見川、河内川、勝部川、由良川、加勢蛇川、阿弥陀川、佐陀川）について見ると、勝部川の一部に類型C～E以下に相当する地点があり、由良川が類型B～Cに相当しているものの、他の地点はすべて類型A～Aに相当しており、おおむね清浄な水質である。

都市河川のうち、鳥取市内を流れている旧袋川は河川類型B～C相当、倉吉市内の玉川は類型AA～E以下、また米子市内の旧加茂川は類型B～Dに相当する水質であり、玉川上流部を除いていずれも依然として汚濁している。

〔湖沼〕

湖山池はCOD（75%値）61～6.4 mg/ℓで湖沼類型C相当、多鯨ヶ池は38～45 mg/ℓ（同B相当）、東郷池50～56 mg/ℓ（同B～C相当）といずれも池全体が汚濁しているが、中海は24～66 mg/ℓ（同A～C相当）と地点によって汚濁状況に幅がある。

また、全窒素、全りんについては、湖山池は全窒素Ⅴ相当、全りんⅤ相当、東郷池は、全窒素Ⅴ相当、全りんⅤ相当、多鯨ヶ池は全窒素Ⅳ～Ⅴ相当、全りんⅢ相当、中海は全窒素Ⅲ～Ⅴ相当、全りんⅣ～Ⅴ相当であり、いずれの湖沼も富栄養化が進んでいる。

〔海域〕

美保湾はCOD（75%値）15～28 mg/ℓと海域の類型A～Bに相当しており、また、本県の日本海沿岸海域は<0.5～1.1 mg/ℓ（同A相当）と全域ではほぼ清浄な水質を保持している。

なお、県内の20海水浴場はすべて環境庁の判定基準による「水質AA～A」（旧「快適」ランク）に該当している。

表51 BOD又はCODの概要及び環境基準適合状況

水域名	地点名	BOD 年平均値 (mg/ℓ)	環境基準適合状況			
			あてはめて いる類型	適合率 (%)	BOD 75%値 (mg/ℓ)	相当する 類型
〔河川〕 (一級河川) 千代川水域 千代川	賀 露 行 徳 原 橋 稻 太 佐 常 市 貫 市 瀬 毛 谷 八 米 束 力 川 代 岸 寺 野 私 下 都 門 川 尾 佐 別 治 府 川 野 天 神 神 川 府 水 系 天 神 川 田	0.9	A	91.7	0.9	AA
		1.1	A	91.7	1.6	A
		0.7	AA	91.7	0.7	AA
		0.9	AA	66.7	1.1	A
		0.8	AA	75.0	0.9	AA
		0.8	AA	100	0.9	AA
		0.6	AA	100	0.5	AA
		0.8	—	—	0.9	AA
		0.7	—	—	0.9	AA
		0.6	—	—	0.6	AA
	0.9	—	—	1.1	A	
	0.8	—	—	0.9	AA	
	1.1	A	100	1.5	A	

水域名	地点名	BOD又はCOD 年平均値 (mg/l)	環境基準適合状況						
			あてはめて いる類型	適合率 (%)	BOD又はCOD 75%値 (mg/l)	相当する 類型			
天神川	小田田	1.2	A	96.4	1.5	A			
		1.2	AA	58.3	1.3	A			
		0.9	AA	66.7	1.1	A			
小鴨川	大原	0.7	AA	91.7	0.8	AA			
		1.0	—	—	1.0	AA			
		0.9	—	—	1.0	AA			
三徳川	関原	1.1	—	—	1.4	A			
		0.7	—	—	0.9	AA			
		0.9	—	—	0.8	AA			
加茂川	片柴	0.7	—	—	0.8	AA			
		0.8	—	—	1.0	AA			
日野川水系 日野川	森	1.1	A	91.7	1.1	A			
		0.8	A	100	1.0	AA			
		0.6	AA	91.7	0.8	AA			
		0.6	AA	100	0.7	AA			
		0.5	AA	100	0.5	AA			
		0.6	AA	100	0.6	AA			
		0.6	AA	100	0.5	AA			
		0.5	AA	100	<0.5	AA			
		1.1	—	—	1.2	A			
		1.2	—	—	1.6	A			
法勝寺川	勝	0.5	—	—	<0.5	AA			
		0.5	—	—	<0.5	AA			
(二級河川)	板井原川	0.8~1.1	—	—	0.9~1.5	AA~A			
		0.7~1.0	—	—	0.7~1.2	AA~A			
		0.5~1.3	—	—	<0.5~1.3	AA~A			
		0.7~9.1	—	—	0.7~12	AA-Eより悪い			
		2.6~3.4	—	—	2.7~3.2	B~C			
		0.8~1.2	—	—	0.8~1.4	AA~A			
		0.6~0.9	—	—	0.6~1.0	AA			
		0.9~1.2	—	—	0.5~1.6	AA~A			
		2.1~3.7	—	—	2.5~4.3	B~C			
		1.0~2.3	—	—	1.0~2.6	AA Eより悪い			
〔湖沼〕	旧加茂川	2.4~4.1	—	—	2.4~7.8	B~D			
		湖山池	4	地点	5.2~5.5	A	0~8.3	6.1~6.4	C
		東郷池	4	地点	4.5~4.6	A	8.3~25.0	5.0~5.6	B~C
〔海域〕	多鯨ヶ池	3	地点	3.7~4.6	—	—	3.8~4.5	B	
		中海	10	地点	2.0~6.0	A	0~100	2.4~6.6	A~C
美保湾	日本海沿岸	7	地点	1.3~2.0	A	50.0~100	1.5~2.8	A~B	
		1	地点	1.5	B	100	1.6	A	
		8	地点	0.5~1.0	A	100	0.5~1.1	A	
海水浴場	20	地点	0.5~1.5	(A)	100	0.6~1.6	A		

(備考: 海水浴場については、開設期間内に測定した「游泳区域」の水質を示す。)

(注) 適合率(%) = $\frac{\text{環境基準に適合した日数}}{\text{総測定日数}} \times 100$

75%値 適合率が75%以上の場合、環境基準に適合しているものとする。(環境庁通達) 年間のy個の日間平均値の全データを値の小さいものから順に並べた場合の(y × 0.75)番目(その数が整数でない時は、直近上位の整数)の数値をい、環境基準の水域類型あてはめに係る水質値を示す。

(例) A地点の測定値(平均値)が下記の場合
6.0 6.1 6.2 6.5 6.7 6.8 6.8 7.0 7.5 8.0
75%値 = $10 \times 0.75 = 7.5 \rightarrow 8$ 番目の値 7.0

表 52 全窒素、全りん的环境基準適合状況

水域名	あてはめて いる環境 基準類型	環 境 基 準 適 合 状 況						
		地 点 名	全 窒 素 年平均値 (mg/ℓ)	環境基準 適合率 (%)	相当する 環境基準 類 型	全 り ん 年平均値 (mg/ℓ)	環境基準 適合率 (%)	相当する 環境基準 類 型
湖山池	—	布勢地先	0.74		V	0.068		V
		堀越地先	0.70		V	0.064		V
		中央部	0.77		V	0.065		V
		松原地先	0.73		V	0.067		V
東郷池	—	下浅津地先	0.85		V	0.060		V
		中央部	0.82		V	0.062		V
		野花地先	1.0		V	0.063		V
		松崎地先	0.95		V	0.060		V
多鯰池	—	西部	0.62		V	0.027		III
		東南部	0.43		IV	0.017		III
		北部	0.47		IV	0.017		III
中 海	III 全窒素 0.4mg/ℓ以下 全りん 0.03mg/ℓ以下	境小道 中央部	0.46	41.7 (58.3)	IV	0.041	23.8 (66.7)	IV
		小篠津 町地先	0.50	20.8 (50.0)	IV	0.048	16.7 (41.7)	IV
		葭津地 先	0.62	8.3 (25.0)	V	0.051	23.8 (52.4)	V
		米子湾 中央部	0.95	0 (16.7)	V	0.089	0 (38.1)	V
		美保飛 行場 地先	0.54	33.0	IV	0.054	8.3	V
		彦名町 地先	0.60	8.3	IV	0.055	8.3	V
		旧加茂 川口 地先	0.95	0	V	0.091	0	V
		境水道 口	0.38	58.3	III	0.037	33.3	IV
		中兵港	0.53	16.7	IV	0.054	8.3	V

(注) 評価方法 表層の年間平均値により行うものとする。(環境庁水質保全局長通達)
 適合率・(環境基準に適合した検体数/総検体数)×100
 環境基準適合率の()は暫定目標に対する適合率、適合状況である。

{ 暫定目標 中海中央部 全窒素 0.50mg/ℓ 全りん 0.045mg/ℓ
 米子湾中央部 全窒素 0.85mg/ℓ 全りん 0.080mg/ℓ
 境水道中央部、小篠津町地先、葭津地先については中海中央部の暫定目標
 により評価
 }

表 53 生活環境の保全に関する環境基準(昭46 12 28 環境庁告示第59号)

1 河 川

項目 類型	利用目的の適応性	基 準 値				大腸菌群数
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	
AA	水道1級・自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	50MPN/100ml 以下
A	水道2級・水産1級・水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	2mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	1,000MPN/100ml 以下
B	水道3級・水産2級及びC以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ 以下	25mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	5,000MPN/100ml 以下
C	水産3級・工業用水1級及びD以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ 以下	50mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	—
D	工業用水2級・農業用水及びE以下の欄に掲げるもの	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ 以下	100mg/ℓ 以下	2mg/ℓ 以上	—
E	工業用水3級 環境保全	6.0以上 8.5以下	10mg/ℓ 以下	ごみ等の浮遊物が認められないこと	2mg/ℓ 以上	—

- (注) 1 自然環境保全 自然探勝等の環境保全
 2 水道1級 ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 " 2級 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
 " 3級 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3 水産1級 ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 " 2級 サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産3級の水産生物用
 " 3級 コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
 4 工業用水1級 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 " 2級 薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
 3級 特殊の浄水操作を行うもの
 5 環境保全 国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

2 湖 沼 (天然湖沼及び貯水量1,000万立方メートル以上の人工湖)

ア

項目 類型	利用目的の適応性	基 準 値				大腸菌群数
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	浮遊物質量 (SS)	溶存酸素量 (DO)	
AA	水道1級・水産1級・自然環境保全及びA以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	1mg/ℓ 以下	1mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	50MPN/100ml 以下
(A)	水道2、3級・水産2級・水浴及びB以下の欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	3mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以下	7.5mg/ℓ 以上	1,000MPN/100ml 以下
B	水産3級・工業用水1級・農業用水及びCの欄に掲げるもの	6.5以上 8.5以下	5mg/ℓ 以下	15mg/ℓ 以下	5mg/ℓ 以上	—
C	工業用水2級・環境保全	6.0以上 8.5以下	8mg/ℓ 以下	ごみ等の浮遊物が認められないこと	2mg/ℓ 以上	—

- (注) 1 自然環境保全 自然探勝等の環境の保全
 2 水道1級 ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
 水道2、3級 沈殿ろ過等による通常の浄水操作、又は、前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの
 3 水産1級 ヒメマス等貧栄養湖型¹の水域の水産生物用並びに水産2級及び水産3級の水産生物用
 " 2級 サケ科魚類及びアユ等貧栄養湖型¹の水域の水産生物用並びに水産3級の水産生物用
 " 3級 コイ、フナ等富栄養湖型¹の水域の水産生物用
 4 工業用水1級 沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
 2級: 薬品注入等による高度の浄水操作、又は、特殊な浄水操作を行うもの
 5 環境保全 国民の日常生活(沿岸の遊歩等を含む。)において不快感を生じない限度

項目 類型	利用目的の適応性	基準値	
		全窒素	全りん
I	自然環境保全及びⅡ以下の欄に掲げるもの	0.1 mg/ℓ 以下	0.005 mg/ℓ 以下
Ⅱ	水道 1、2 3 級（特殊なものを除く。） 水産 Ⅰ 種 水浴及びⅢ以下の欄に掲げるもの	0.2 mg/ℓ 以下	0.01 mg/ℓ 以下
Ⅲ	水道 3 級（特殊なもの）及びⅣ以下の欄に掲げるもの	0.4 mg/ℓ 以下	0.03 mg/ℓ 以下
Ⅳ	水産 2 種及びⅤの欄に掲げるもの	0.6 mg/ℓ 以下	0.05 mg/ℓ 以下
Ⅴ	水産 3 種 工業用水 農業用水 環境保全	1 mg/ℓ 以下	0.1 mg/ℓ 以下

- (注)
- 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
 - 2 水道 1 級 ろ過等による簡易な浄水操作を行うもの
水道 2 級 沈殿ろ過等による通常の浄水操作を行うもの
水道 3 級 前処理等を伴う高度の浄水操作を行うもの（「特殊なもの」とは、臭気物質の除去が可能な特殊な浄水操作を行うものをいう。）
 - 3 水産 1 種 サケ科魚類及びアユ等の水産生物用並びに水産 2 種及び水産 3 種の水産生物用
水産 2 種 ワカサギ等の水産生物用及び水産 3 種の水産生物用
水産 3 種 コイ、フナ等の水産生物用
 - 4 環境保全 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

3 海 域

項目 類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン濃度 (pH)	化学的酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	油 分
A	水産 1 級 水浴及び自然環境保全及び B 以下の欄に掲げるもの	7.8 以上 8.3 以下	2 mg/ℓ 以下	7.5 mg/ℓ 以上	1 000 MPN / 100 ml 以下	検出されないこと
B	水産 2 級 工業用水及び C の欄に掲げるもの	7.8 以上 8.3 以下	3 mg/ℓ 以下	5 mg/ℓ 以上	—	検出されないこと
C	環 境 保 全	7.0 以上 8.3 以下	8 mg/ℓ 以下	2 mg/ℓ 以上	—	—

- (注)
- 1 自然環境保全 自然探勝等の環境保全
 - 2 水産 1 級 マタイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産 2 級の水産生物用
" 2 級 ボフ、ノリ等の水産生物用
 - 3 環境保全 国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

(2) 水域別

ア 河川

㊦ 三大河川

千代川水域

千代川は有富川との合流点(河口から約7km上流)から、上流は、河川類型AA、下流は類型Aの環境基準が指定されており、BOD(75%値)で見れば、類型AAの稻常で環境基準に適合していないか、その他の地点は環境基準に適合している。その他の項目について、それぞれの指定類型に対する環境基準適合率を見ると類型AAの水域ではDO98%、SS100%、大腸菌群数0%、類型Aの水域でDO92%、SS96%、大腸菌群数4%となっている。

各河川の水質の状況をBODについて見れば、千代川は0.6~1.1mg/lと清浄であり、千代川に流入する八東川、私都川、佐治川も0.6~0.9mg/lと極めて清澄な水質を維持している。

水質の汚濁状況(BOD)を前年度と比較してみると、千代川及び流入河川である八東川、私都川、佐治川とも前年度と同程度でありこの水系の水質の経年変化を見てもほぼ同程度で推移している。

(注) 各河川の水質経年変化、環境基準適合率の詳細については資料27を参照のこと。

表54 測定結果

河川名	指定類型	地点名	測定日数	pH	DO (mg/l)	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	元年度 BOD (mg/l)		
千代川水系	A	賀露	12	7.4	9.7	0.9(0.9)	10	$1.3 \times 10^3 \sim 4.9 \times 10^4$	0.8		
	A	行徳	12	7.0	10	1.1(1.6)	11	$6.1 \times 10^2 \sim 6.6 \times 10^4$	1.0		
	AA	原太橋	12	7.0	10	0.7(0.7)	3	$3.3 \times 10^2 \sim 3.5 \times 10^4$	0.9		
	AA	稻常	12	7.0	10	0.9(1.1)	3	$3.1 \times 10^2 \sim 7.9 \times 10^4$	0.8		
	AA	佐貫	12	7.0	11	0.8(0.9)	4	$4.6 \times 10^2 \sim 1.7 \times 10^4$	0.8		
	AA	市瀬	12	7.0	10	0.8(0.9)	3	$4.9 \times 10^2 \sim 3.5 \times 10^4$	0.7		
	AA	毛谷	12	6.9	10	0.6(0.5)	2	$3.3 \times 10^2 \sim 3.5 \times 10^4$	0.6		
	八東川	-	米橋	12	7.1	10	0.8(0.9)	3	$4.9 \times 10^2 \sim 3.5 \times 10^4$	0.7	
		-	万代寺	12	7.1	11	0.7(0.9)	1	$3.3 \times 10^2 \sim 1.7 \times 10^4$	0.6	
		-	岸野	12	6.9	10	0.6(0.6)	1	$1.3 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^3$	0.5	
		私都川	-	下門尾	12	7.0	11	0.9(1.1)	3	$4.9 \times 10^2 \sim 5.4 \times 10^4$	0.7
			-	別府	12	7.0	10	0.8(0.9)	5	$3.3 \times 10^2 \sim 1.7 \times 10^4$	0.7

()内は75%値

(測定地点図)
〔千代川〕

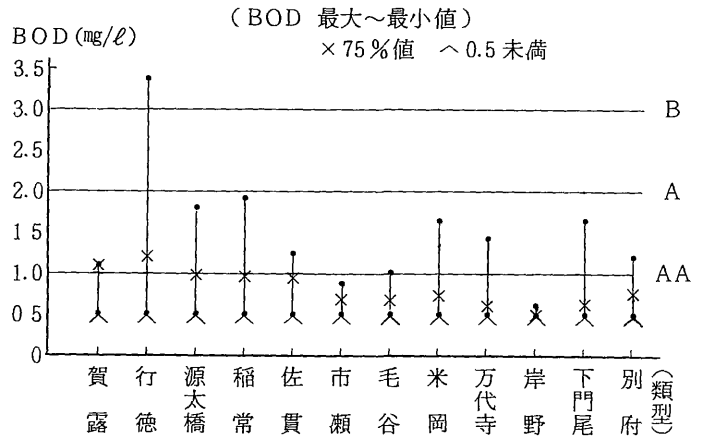


表 55 経年変化

水 域 名	地 点 名	BOD年平均値 (mg/l)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
千代川水系 千代川	賀 露	1.2	1.3	1.1	⇒ 0.6	0.8	0.9
	行 徳	1.1	1.2	1.1	⇒ 0.7	⇒ 1.0	⇒ 1.1
	源 太 橋	1.0	1.0	0.9	0.9	0.9	0.7
	稲 常	0.8	1.0	0.9	0.8	0.8	0.9
	佐 貫	1.0	0.8	0.8	0.7	0.8	0.8
	市 瀬	1.3	1.2	⇒ 0.8	0.6	0.7	0.8
	毛 谷	0.9	⇒ 1.2	⇒ 0.6	0.6	0.6	0.6
八 東 川	米 岡	1.0	1.2	1.1	⇒ 0.6	0.7	0.8
	万 代 寺	1.0	1.2	⇒ 0.9	0.7	0.6	0.7
	岸 野	0.9	0.9	0.7	0.5	0.5	0.6
私 都 川	下 門 尾	0.9	1.1	1.2	⇒ 0.7	0.7	0.9
佐 治 川	別 府	1.0	1.2	⇒ 0.9	⇒ 0.6	0.7	0.8

(注) ⇒ 前年度に比べ良くなったもの ➡ 前年度に比べ悪化したもの

天神川水系

天神川は小鴨川合流点（河口から約7km上流）から上流は、河川類型AA、下流は類型Aの環境基準が定められており、BOD（75%値）でみれば類型AAの今泉、大原で環境基準に適合していないか、他の地点は環境基準に適合している。BOD以外の項目の環境基準適合率を見ると、類型AAの水域では、DO 100%、SS 94%、大腸菌群数 0%、類型Aの水域で、DO 93%、SS 93%、大腸菌群数 5%となっている。

各河川の水質の状況をBODで見れば、天神川（0.7~1.2 mg/l）及び天神川に流入する小鴨川（0.7~1.1 mg/l）、三徳川（0.7~0.9 mg/l）とも清浄である。

本水系の汚濁状況（BOD）を前年度と比較すると、天神川、小鴨川、三徳川とも前年度と同程度であり、経年的な水質の変化を見ても水系全体としてはほぼ同程度の水質で推移している。

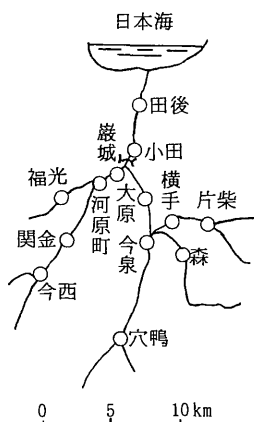
表56 測定結果

水域名	指定 類型	地点名	測定 日数	pH	DO (mg/ℓ)	BOD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	大腸菌群数 (MPN/100mℓ)	元年度 BOD (mg/ℓ)
天神川水系	A A AA AA	田後	12	7.0	9.3	1.1(1.5)	11	$7.9 \times 10^2 \sim 1.3 \times 10^5$	1.1
		小大	28	7.2	9.9	1.2(1.5)	10	$7.9 \times 10^2 \sim 7.0 \times 10^4$	1.0
		大原	12	7.2	10	1.2(1.3)	9	$1.3 \times 10^3 \sim 1.1 \times 10^5$	1.0
		今泉	12	7.3	10	0.9(1.1)	5	$1.1 \times 10^2 \sim 1.3 \times 10^4$	0.6
	-	穴鴨	12	7.3	11	0.7(0.8)	2	$3.3 \times 10^2 \sim 1.1 \times 10^4$	0.6
		巖城	12	7.2	10	1.0(1.0)	14	$7.9 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^4$	0.8
		河原町	12	7.3	10	0.9(1.0)	10	$7.0 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$	0.7
		関金	12	7.4	10	1.1(1.4)	10	$3.3 \times 10^3 \sim 4.9 \times 10^4$	0.7
	-	今西	12	7.4	10	0.7(0.9)	2	$3.3 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$	0.7
		福光	12	7.4	10	1.1(1.1)	22	$1.7 \times 10^3 \sim 7.9 \times 10^4$	0.8
		二徳川	12	7.4	11	0.9(0.8)	3	$7.9 \times 10^3 \sim 9.2 \times 10^4$	0.9
	-	片柴	12	7.3	10	0.7(0.8)	2	$3.3 \times 10^2 \sim 3.5 \times 10^4$	0.6
	-	森	12	7.2	10	0.8(1.0)	3	$3.3 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$	0.6

()内は75%値

(測定地点図)

[天神川]



(BOD 最大~最小値)

BOD (mg/ℓ) × 75%値 ~ 0.5未満

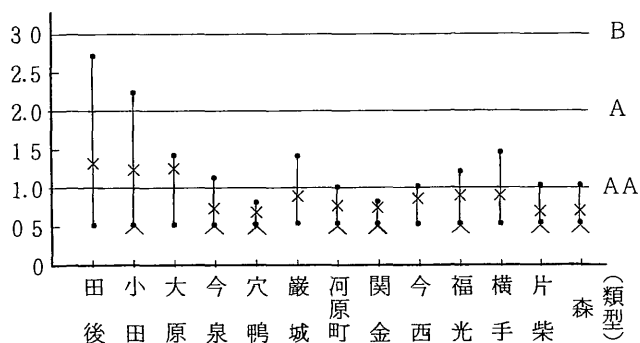


表57 経年変化

水域名	地点名	BOD年平均値(mg/ℓ)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
天神川水系	田後	1.4	⇒ 1.1	⇒ 0.8	0.8	⇒ 1.1	1.1
	小大	1.1	1.2	1.0	0.9	1.0	1.2
	大原	0.6	0.7	0.6	0.6	1.0	1.2
	今泉	0.6	0.5	0.5	0.6	0.6	⇒ 0.9
小鴨川	穴鴨	0.6	0.6	0.5	0.5	0.6	0.7
	巖城	0.8	0.7	0.6	0.6	0.8	1.0
	河原町	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	0.9
	関金	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7	⇒ 1.1
一徳川	今西	0.5	0.6	0.6	0.5	0.7	0.7
	横手	0.8	0.9	0.7	0.7	0.9	0.9
加茂川	片柴	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7
	森	0.6	0.5	0.6	0.5	0.6	0.8

日野川水系

日野川は日野橋（河口から約3km上流）から上流は河川類型AA、下流は類型Aの環境基準が定められており、BOD（75%値）でみれば類型A及びAA水域の全地点で環境基準に適合している。BOD以外の項目の環境基準適合率を見ると、類型AAの水域では、DO、SSは環境基準に適合しているが、大腸菌群数は0%である。また、類型Aの水域では、DOは98%、SSは98%、大腸菌群数は31%となっている。

この水系の水質の状況（BOD）は、日野川（0.5～1.1mg/l）、及び法勝寺川（1.1～1.3mg/l）、板井原川（0.5mg/l）とも、清浄な水質であるといえる。

水質の状況をBODで前年度と比較すると、日野川、法勝寺川とも前年度と同程度であり、経年的に見ても、この水系全体としてはほぼ同程度の水質で推移している。

表 58 測定結果

水域名	指定類型	地点名	測定日数	pH	DO (mg/l)	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	元年度BOD (mg/l)	
日野川水系	A	皆生	12	7.2	10	1.1 (1.1)	10	$7.0 \times 10^2 \sim 2.2 \times 10^4$	0.8	
	A	車尾	30	7.4	10	0.8 (1.0)	9	$1.7 \times 10^2 \sim 2.2 \times 10^4$	0.7	
	AA	八幡	12	7.6	10	0.6 (0.8)	6	$1.3 \times 10^2 \sim 7.9 \times 10^3$	0.7	
	AA	溝口	12	7.6	10	0.6 (0.7)	8	$1.3 \times 10^2 \sim 1.1 \times 10^4$	0.7	
	AA	武庫	12	7.2	10	0.5 (0.5)	6	$2.3 \times 10^2 \sim 7.0 \times 10^3$	0.6	
	AA	下榎	12	7.1	10	0.6 (0.6)	4	$2.3 \times 10^2 \sim 7.9 \times 10^3$	0.6	
	AA	生山	12	7.2	10	0.6 (0.5)	4	$3.3 \times 10^2 \sim 1.3 \times 10^4$	0.6	
	AA	矢戸	12	7.2	10	0.5 (<0.5)	2	$6.8 \times 10 \sim 1.3 \times 10^4$	0.6	
	法勝寺川	—	福市	12	7.3	9.9	1.1 (1.2)	12	$9.2 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$	1.0
		—	法勝寺	12	7.4	10	1.2 (1.6)	7	$1.3 \times 10^2 \sim 1.3 \times 10^4$	0.6
板井原川	—	高尾	12	7.2	10	0.5 (<0.5)	3	$1.7 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^3$	0.6	

()内は75%値

(測定地点図)
〔日野川〕

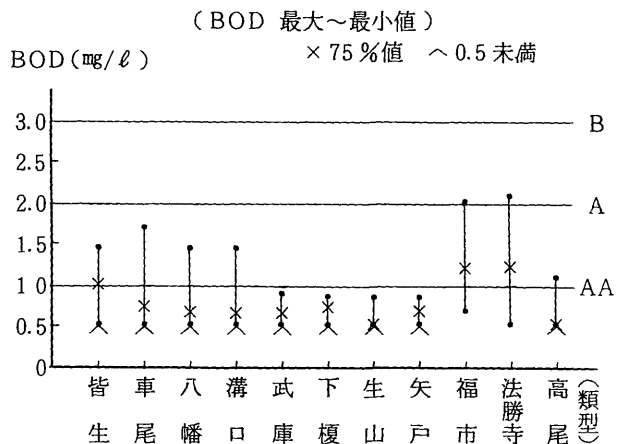
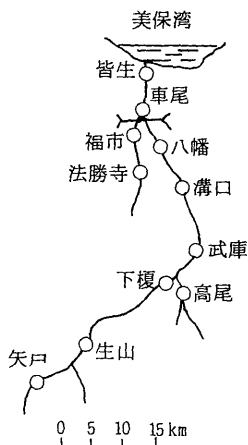


表59 経年変化

水域名	地点名	BOD年平均値(mg/l)					
		S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度
日野川水系 日野川	皆生	12	⇒ 09	09	07	08	⇒ 1.1
		11	10	⇒ 07	07	07	08
	八幡	07	06	07	06	07	06
		08	06	06	06	07	06
	溝口	07	06	06	05	06	05
		06	06	05	0	06	06
	下生	06	0.7	0.5	0.5	0.6	0.6
		06	06	0.5	0.5	0.6	0.5
法勝寺川	福勝	10	08	0.8	0.7	⇒ 10	11
		07	07	0.7	0.6	⇒ 11	1.2
板井原川	高尾	05	06	05	0.5	06	05

(イ) 都市河川

旧袋川(鳥取市)の水質は、BOD(75%値)25~43 mg/l(河川類型B~C相当)と汚濁しているが、前年度の測定結果と比較するとはほぼ同程度である。

玉川(倉吉市)は、上流部の八幡町(10 mg/l)を除いて48~26 mg/l(河川類型C~E以下相当)と依然として汚濁しており 特に宮川町、西仲町の各地点が著しい。前年度と比較するとはほぼ同程度である。

旧加茂川(米子市)は24~78 mg/l(河川類型B~D以下相当)と全水域で汚濁している。また、前年度と比較すると、全般にやや良くなっている。

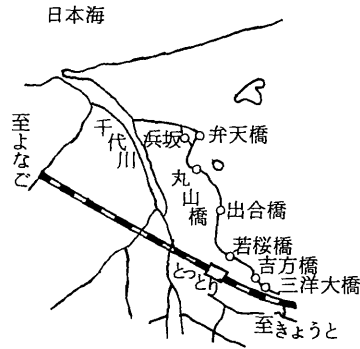
これらの都市河川の経年変化(昭和60年度~平成2年度)を見ると、旧袋川、玉川、旧加茂川とも年により変動はあるもののほぼ横ばいの水質で推移している。

表60 測定結果

河川名	指定 類型	地点名	測定 日数	pH	DO (mg/l)	BOD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	元年度 BOD (mg/l)
旧袋川	-	浜坂	12	7.1	7.9	2.9(3.2)	15	$4.9 \times 10^3 \sim 7.9 \times 10^4$	3.4
	-	弁天橋	12	6.9	8.3	2.6(3.8)	13	$4.9 \times 10^3 \sim 5.4 \times 10^4$	2.2
	-	丸山橋	12	6.9	8.1	2.9(3.2)	11	$1.7 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^5$	2.6
	-	出合橋	12	7.0	8.5	2.1(2.5)	19	$4.1 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^5$	2.3
	-	岩桜橋	12	6.9	8.4	2.4(3.2)	12	$4.9 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^5$	2.5
	-	古方橋	12	7.0	8.4	3.7(4.3)	11	$1.0 \times 10^5 \sim 2.4 \times 10^5$	3.5
	-	洋大橋	6	7.2	9.6	2.9(3.6)	11	$5.0 \times 10^3 \sim 7.9 \times 10^3$	1.4
玉川	-	蔽城	12	6.9	7.9	4.0(4.8)	9	$1.3 \times 10^4 \sim 2.4 \times 10^5$	3.2
	-	宮川町	12	7.0	5.5	14(11)	8	$1.3 \times 10^4 \sim 1.3 \times 10^5$	13
	-	西仲町	12	7.1	7.4	23(26)	9	$7.9 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^5$	20
	-	余戸谷町	12	7.2	9.2	11(7.0)	10	$3.3 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^5$	8.0
	-	八幡町	12	7.3	10	1.0(1.0)	4	$1.1 \times 10^3 \sim 4.9 \times 10^4$	0.7
旧加茂川	-	灘町橋	10	7.0	7.4	2.4(2.4)	11	$2.2 \times 10^4 \sim 3.5 \times 10^5$	4.5
	-	入禰橋	10	7.1	8.1	2.9(3.3)	14	$1.7 \times 10^4 \sim 5.4 \times 10^5$	8.1
	-	旭橋	10	7.1	8.8	2.5(2.9)	15	$1.1 \times 10^4 \sim 1.7 \times 10^5$	4.6
	-	上橋	10	7.1	9.1	4.1(7.8)	13	$2.8 \times 10^4 \sim 1.7 \times 10^5$	8.6
	-	加茂川橋	10	7.1	9.5	4.0(6.2)	13	$3.5 \times 10^3 \sim 1.4 \times 10^5$	9.8

()内は75%値

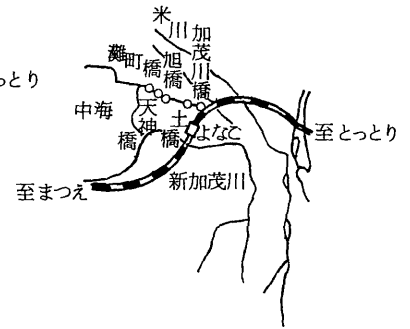
(測定地点図)
〔旧袋川〕



〔玉川〕



〔旧加茂川〕



(BOD 最大~最小値)
× 75% 値
∧ 0.5 未満

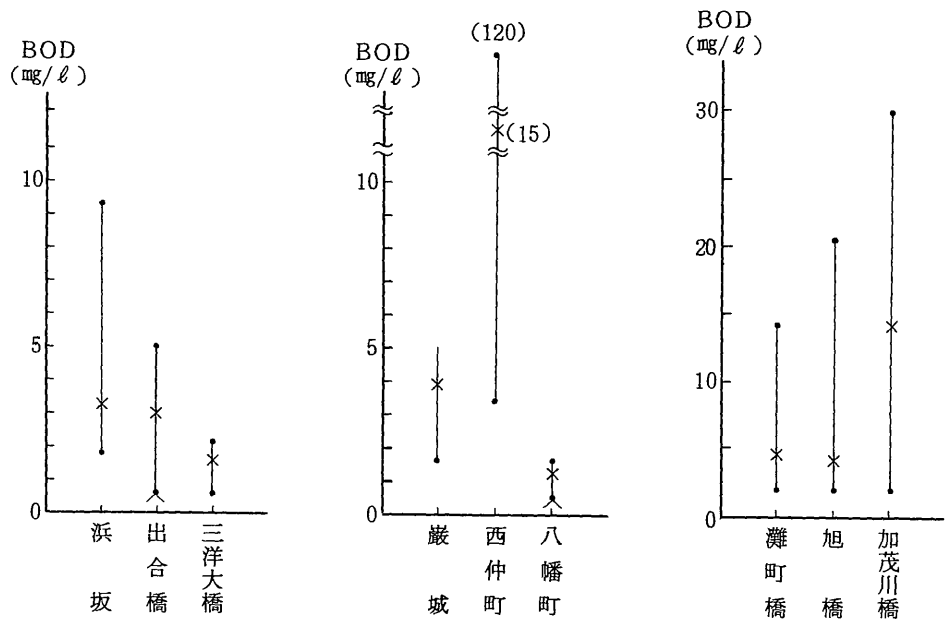


表 61 経年変化

水域名	地点名	BOD年平均值 (mg/l)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
旧袋川	7地点	3.3~4.8	2.6~5.4	2.0~6.7	⇒1.6~4.9	1.4~3.5	2.1~3.7
玉川	5地点	0.9~20	0.8~19	0.7~20	0.7~20	0.7~20	⇒1.0~23
旧加茂川	5地点	9.7~27	⇒8.8~11	⇒8.6~26	⇒5.7~15	⇒4.5~9.8	⇒2.4~4.1

(ウ) 二級河川

県内の主要二級河川8河川について、それぞれ各3地点の測定結果を見ると、阿弥蛇川はBOD(75%値)1mg/ℓ以下(河川類型AA相当)と極めて清浄な水質であり、他の河川も一部の地点を除きおおむね清浄な水質を維持している。

各河川の水質について、前年度との対比を見ると、全般にはほぼ同程度である。

また、これらの河川の経年変化は、ほぼ同程度で推移している。

表62 測定結果

河川名	指定 類型	地点名	測定 日数	pH	DO (mg/ℓ)	BOD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	元年度 BOD (mg/ℓ)
蒲生川	—	本庄	4	7.1	9.2	0.9(0.9)	9	$2.3 \times 10^2 \sim 3.1 \times 10^3$	0.6
	—	恩志	4	7.1	10	0.8(1.0)	2	$2.2 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^4$	0.8
	—	太田	4	7.0	9.8	1.1(1.5)	3	$4.9 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^3$	0.7
塩見川	—	細川	4	7.0	8.1	1.0(1.2)	10	$2.3 \times 10^2 \sim 5.4 \times 10^4$	1.0
	—	海士	4	6.7	5.8	1.0(1.0)	6	$2.8 \times 10^3 \sim 1.7 \times 10^4$	1.2
	—	箭溪	4	7.1	10	0.7(0.7)	2	$1.1 \times 10^3 \sim 7.0 \times 10^3$	0.5
河内川	—	宝木	4	6.9	9.6	1.3(1.3)	15	$1.3 \times 10^3 \sim 1.6 \times 10^5$	1.2
	—	宿	4	7.2	10	1.1(1.3)	3	$4.9 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$	0.8
	—	来日	4	7.1	10	0.5(<0.5)	1	$2.3 \times 10^2 \sim 4.9 \times 10^3$	0.5
勝部川	—	青谷	9	7.1	8.6	1.7(1.7)	7	$2.3 \times 10^3 \sim >2.4 \times 10^5$	2.1
	—	吉川	4	7.0	9.7	0.7(0.7)	6	$4.9 \times 10^2 \sim 3.3 \times 10^4$	0.6
	—	善田	9	7.0	9.6	2.3(1.7)	6	$1.7 \times 10^3 \sim >>2.4 \times 10^5$	2.7
由良川	—	瀬戸	4	7.0	9.4	2.7(2.9)	7	$1.7 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$	1.7
	—	穴沢	4	7.0	9.1	3.4(3.2)	9	$3.3 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$	1.8
	—	東亀谷	4	7.3	10	2.6(2.7)	5	$1.1 \times 10^3 \sim 3.3 \times 10^4$	3.2
加勢蛇川	—	上伊勢	4	7.6	11	1.0(1.1)	4	$3.3 \times 10^2 \sim 3.5 \times 10^4$	1.0
	—	八反田	4	7.5	10	1.2(1.4)	2	$7.0 \times 10^2 \sim 3.5 \times 10^4$	0.7
	—	二本杉	4	7.3	9.8	0.8(0.8)	2	$4.5 \times 10 \sim 1.3 \times 10^4$	0.6
阿弥陀川	—	所子	4	7.3	10	0.9(1.0)	3	$4.6 \times 10^2 \sim 1.1 \times 10^4$	0.8
	—	坊領	4	7.4	10	0.6(0.7)	4	$4.6 \times 10^2 \sim 1.7 \times 10^4$	1.1
	—	原	4	7.2	9.7	0.7(0.6)	3	$1.7 \times 10^2 \sim 2.4 \times 10^4$	0.6
佐陀川	—	佐陀	4	7.5	10	1.2(1.6)	15	$1.3 \times 10^3 \sim 2.4 \times 10^5$	1.9
	—	吉長	4	6.9	10	1.1(0.5)	6	$1.7 \times 10^3 \sim 2.2 \times 10^4$	1.4
	—	福乃	4	7.5	9.6	0.9(0.9)	18	$1.4 \times 10^2 \sim 3.5 \times 10^4$	0.8

()内は75%値

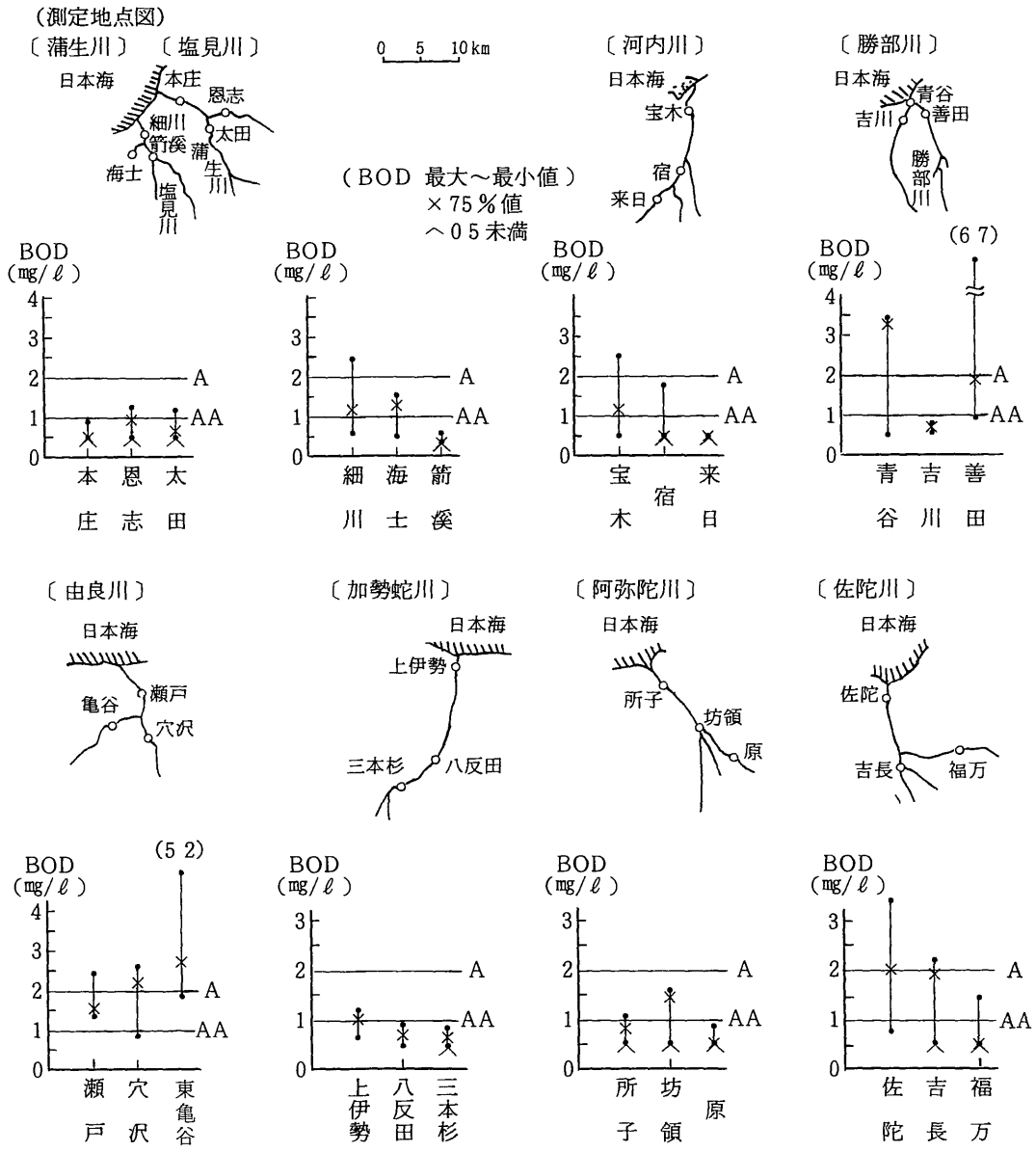


表 63 経年変化

水 域 名	地点名	BOD年平均値 (mg/l)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
蒲 生 川	3地点	1.0~1.9	1.0~1.8	⇒ 0.9~1.2	⇒ 0.7~0.8	0.6~0.8	0.8~1.1
塩 見 川	"	1.0~2.5	⇒ 1.0~1.7	⇒ 0.9~1.2	⇒ 0.6~0.9	0.5~1.2	0.7~1.0
河 内 川	"	0.8~1.4	0.9~1.5	⇒ 0.6~1.1	0.7~1.0	0.5~1.2	0.5~1.3
勝 部 川	"	1.0~3.9	⇒ 1.2~1.4	0.9~1.8	⇒ 0.6~1.6	⇒ 0.6~2.7	0.7~2.3
由 良 川	"	1.8~3.0	1.6~3.2	1.6~2.6	1.8~2.4	⇒ 1.7~3.2	2.6~3.4
加 勢 蛇 川	"	0.6~1.1	⇒ 0.7~1.9	⇒ 0.6~1.0	⇒ 0.5~0.6	0.6~1.0	0.8~1.2
阿 弥 陀 川	"	0.8~0.9	⇒ 0.5~0.6	0.5~0.7	0.5~0.6	0.6~1.1	0.6~0.9
佐 陀 川	"	0.9~1.1	⇒ 0.6~0.7	0.6~0.8	0.5~0.7	⇒ 0.8~1.9	⇒ 0.9~1.2

イ 湖 沼

⑦ 湖 山 池

湖山池は、環境基準の湖沼類型Aが定められているが、COD(75%値)は6.1~64mg/ℓと4地点とも環境基準に適合しておらず、類型Cに相当している。その他の項目について環境基準適合率をみると、DO75%、SS17%、大腸菌群数69%となっている。CODについて前年度の水質と比較すると、同程度であり、経年的に見ても近年は同程度で推移している。湖中央部(上層)の全窒素(T-N)、全りん(T-P)については富栄養化が進んでおり 年により変動はあるが近年は同程度で推移している。

表 64 測定結果

地点番号 及び地点名	測定 日数	pH	DO (mg/ℓ)	COD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	大腸菌群数 (MPN/ 100ml)	全窒素 (mg/ℓ)	全りん (mg/ℓ)	元年度 COD (mg/ℓ)
①布勢地先	12	7.5	9.2	5.5 (6.4)	14	1.8×10^1 ~ 9.0×10^3	0.74	0.068	5.6
②堀越地先	12	7.7	9.0	5.2 (6.4)	16	4.1×10^2 ~ 1.2×10^3	0.70	0.064	5.6
③中央部	12	7.7	8.9	5.2 (6.1)	16	1.4×10^1 ~ 3.2×10^3	0.77	0.065	5.5
④松原地先	12	7.8	8.5	5.2 (6.4)	14	2.8×10^1 ~ 2.3×10^3	0.73	0.067	5.8



()内は75%値

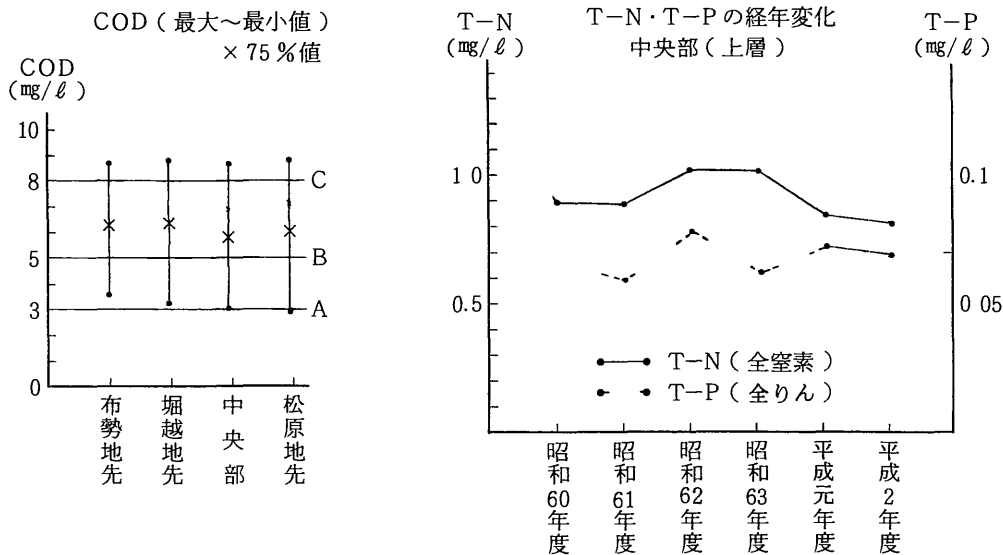


表 65 経年変化

水域名	地点名	COD年平均値(mg/ℓ)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
湖 山 池	4地点	5.9~6.1	5.7~6.2	6.5~6.8	5.4~7.0	⇒ 5.5~5.8	5.2~5.5

(イ) 多鯰ヶ池

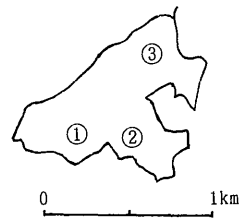
多鯰ヶ池は、環境基準の類型指定がなされていないが、COD(75%値)で見ると3.8~4.3 mg/ℓと湖沼類型Bに相当している。

水質は、池全体が平均して若干汚濁しており、経年的に見るとやや悪化の傾向にある。湖内の3地点を平均した全窒素(T-N)及び全りん(T-P)についてみると前年度とほぼ同程度である。

表 66 測定結果

地点番号及び地点名	測定日数	pH	DO (mg/ℓ)	COD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	大腸菌群数 (NPM/100mℓ)	全窒素 (mg/ℓ)	全りん (mg/ℓ)	元年度 COD (mg/ℓ)
① 西部	4	7.0	7.0	4.6 (4.5)	5	4.8×10^2 ~ 6.7×10^2	0.62	0.027	4.5
② 東南部	4	7.1	7.6	3.7 (3.8)	5	1.4×10^3 ~ 2.8×10^3	0.43	0.017	4.5
③ 北部	4	7.1	7.1	3.8 (4.3)	6	3.2×10^3 ~ 9.2×10^2	0.47	0.017	4.3

(測定地点図)



()内は75%値

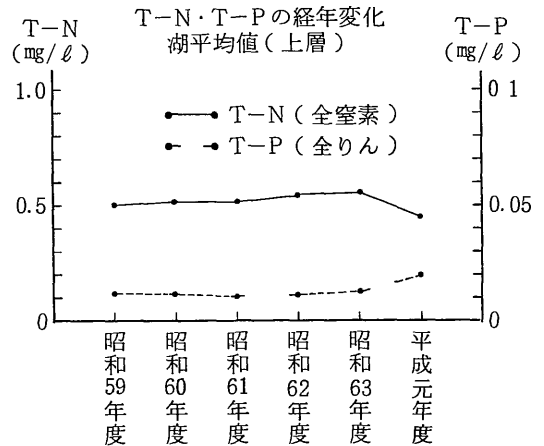
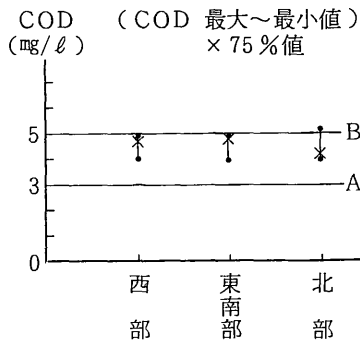


表 67 経年変化

水域名	地点名	COD年平均値 (mg/ℓ)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
多鯰ヶ池	3地点	⇒ 3.0~3.3	3.2~3.5	3.2~3.6	3.5~3.8	→ 4.3~4.5	3.8~4.6

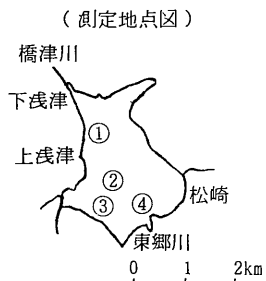
(ウ) 東郷池

東郷池は、環境基準の湖沼類型Aが定められているが、COD(75%値)で見ると、5.0~5.6 mg/ℓと4地点とも環境基準に適合しておらず、類型B~C相当と汚濁している。また、その他の項目の環境基準適合率は、DO 71%、SS 13%及び大腸菌群数 83%となっている。

本湖の水質は、湖全体ではほとんど均一であり、経年的にはほぼ同程度の水質で推移している。また、中央部の全窒素(T-N)及び全りん(T-P)についても年により変動はあるものの同程度で推移している。

表68 測定結果

地点番号及び地点名	測定日数	pH	DO (mg/ℓ)	COD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	大腸菌群数 (MPN/100mℓ)	全窒素 (mg/ℓ)	全りん (mg/ℓ)	元年度COD (mg/ℓ)
①下浅津地先	12	8.5	9.4	4.6 (5.5)	9	2.0×10^4 ~ 1.3×10^4	0.85	0.060	5.1
②中央部	12	8.2	8.4	4.6 (5.6)	9	4.9×10^4 ~ 1.0×10^4	0.82	0.062	5.1
③野花地先	12	8.0	8.7	4.5 (5.1)	9	3.3×10^4 ~ 6.4×10^3	1.0	0.063	4.9
④松崎地先	12	8.4	8.2	4.5 (5.0)	10	3.6×10^4 ~ 1.3×10^4	0.95	0.060	5.1



()内は75%値

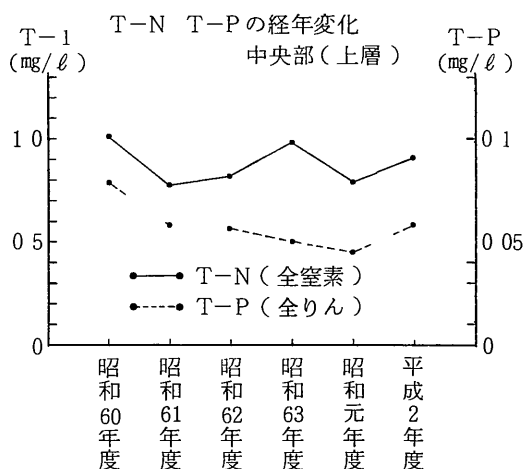
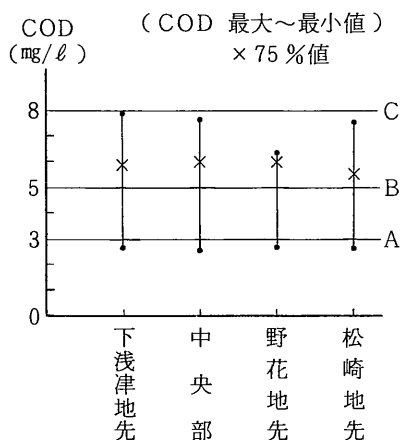


表69 経年変化

水域名	地点名	COD年平均値 (mg/ℓ)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
東郷池	4地点	4.2~4.3	3.9~4.4	4.2~4.4	4.5~4.7	4.9~5.1	4.5~4.6

(二) 中 海

中海は湖沼類型Aの環境基準が定められている。鳥取県水域について5地点のCOD(75%値)で見ると、境水道中央部(30 mg/ℓ)、小篠津町地先(28 mg/ℓ)で類型Aに適合しているか、渡町地先(33 mg/ℓ)、葭津地先(40 mg/ℓ)、米子湾中央部(65 mg/ℓ)は類型B~C相当となっている。他の項目の環境基準適合率を見ると、DO 60%、SS 32%、大腸菌群数85%となっている。

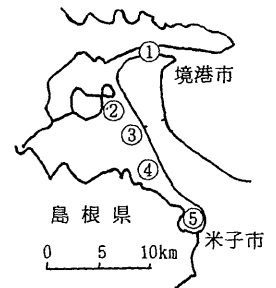
前年度の水質との比較をCODについて見ると、ほぼ同程度であり、経年的に見ても近年は同程度で推移している。

全窒素(T-N)、全りん(T-P)については、類型Ⅲの環境基準に対し、類型Ⅳ~Ⅴ相当と、すべての地点で基準を満足しておらず、暫定目標に対しては、全窒素は境水道中央部及び小篠津町地先、全りんについては境水道中央部で適合している。

表70 測定結果

地点番号 及び地点名	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	SS (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/ 100ml)	全窒素 (mg/l)	全りん (mg/l)	元年度 COD (mg/l)
① 境水道 中央部	21	8.1	8.1	2.5 (3.0)	6	7.0 ~1.6×10	*0.46	0.041	2.6
② 渡町地先	12	7.9	7.4	2.8 (3.3)	5	<2.0 ~3.3×10	—	—	2.5
③ 小篠津 町地先	12	8.3	7.4	2.5 (2.8)	8	1.9 ~6.7×10 ²	*0.50	0.048	3.0
④ 葭津地先	21	8.1	6.9	3.5 (4.0)	7	4.9 ~2.6×10 ³	*0.62	0.051	3.3
⑤ 米子湾 中央部	21	8.5	11	5.7 (6.5)	11	<2.0 ~1.4×10 ⁴	*0.95	0.089	5.2

(測定地点図)



は測定日数12

()内は75%値

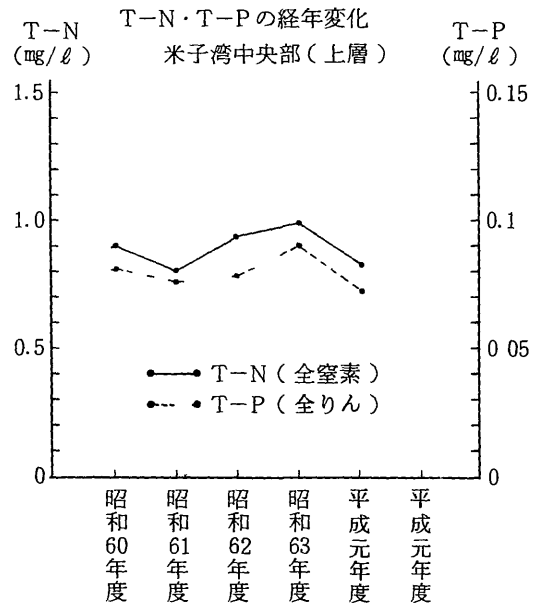
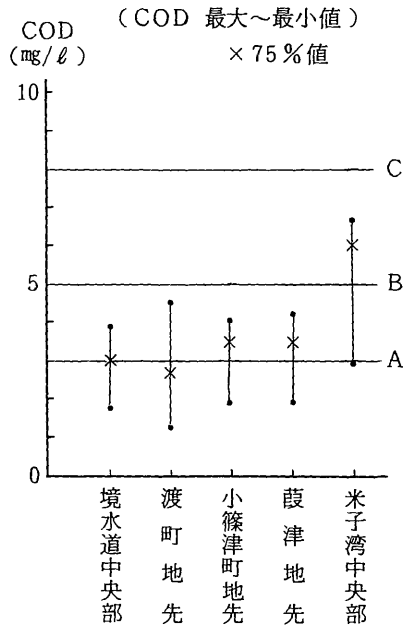
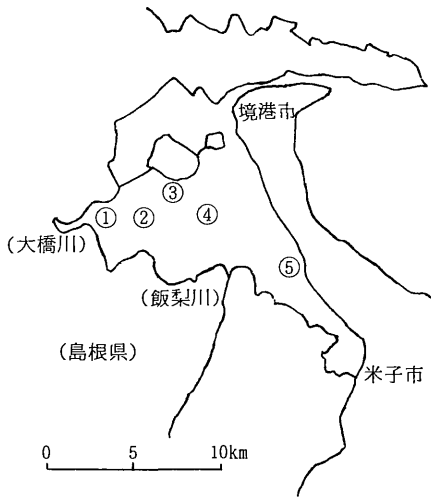


表71 経年変化

水域名	地点名	COD年平均値(mg/l)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
中 海	5地点	1.7~4.7	2.3~4.6	2.3~5.0	2.4~5.7	2.5~5.2	2.5~5.7

<参考> 中海島根県水域の測定結果（建設省及び島根県測定）



地点番号 及び地点名	測定 日数	pH	DO (mg/ℓ)	COD (mg/ℓ)	SS (mg/ℓ)	元年度 COD (mg/ℓ)
① 大橋川 河口地先	22	7.8	7.4	4.5 (5.1)	8	4.4
② 宮東鼻 先	22	8.0	8.3	4.8 (5.9)	6	5.1
③ 中 中央部	20	8.0	7.4	4.2 (4.2)	5	4.5
④ 飯梨川 河口地先	20	8.1	8.4	4.4 (4.9)	7	4.1
⑤ 安来港 先	20	8.2	8.4	4.9 (5.6)	5	4.4

()内は75%値

<参考> 諏訪湖、霞ヶ浦、琵琶湖及び見島湖の環境基準のあてはめ並びに水質汚濁状況との比較

水域名	都道府県	類型指定 年月日	指定類型		達成期間	COD測定値(mg/ℓ)：平均値			
			湖沼 類型	COD		側定箇所	昭和 62年度	昭和 63年度	平成 元年度
諏訪湖	長野	46. 5. 25	A	3 mg/ℓ以下	5年を越える期間 で可及的速やかに	湖心	7.4 (7.5)	5.9 (6.0)	4.8 (5.1)
霞ヶ浦	茨城	47. 11. 6	A	3 mg/ℓ以下	5年を越える期間 で可及的速やかに	"	8.4 (9.1)	7.1 (8.2)	6.9 (8.0)
琵琶湖 (北湖)	滋賀	47. 4. 6	AA	1 mg/ℓ以下	直ちに達成	北湖 (北小松沖)	2.2 (2.3)	2.1 (2.1)	2.3 (2.6)
" (南湖)					5年を越える期間 で可及的速やかに	南湖 (唐崎中央)	2.7 (2.8)	2.7 (2.8)	2.5 (2.7)
見島湖	岡山	46. 5. 25	B	5 mg/ℓ以下		湖心	10 (10)	9.6 (10)	9.5 (10)
湖山池	鳥取	46. 9. 14	A	3 mg/ℓ以下	5年以内		6.5 (7.9)	6.3 (6.3)	5.5 (7.0)
東郷湖	"		"	"	"		4.4 (5.0)	4.7 (5.2)	5.1 (6.1)
中海	"	47. 10. 31	"	"	"	境水道 中央部	2.3 (2.4)	2.4 (2.6)	2.6 (3.0)
						米子湾 中央部	5.0 (5.8)	5.7 (7.0)	5.2 (6.0)

()内は75%値

ウ 海 域

(ア) 美保湾

美保湾のうち、境港外港港湾計画水域（地点番号②）は、海域類型B、その他の水域は類型Aの基準が定められている。水質の状況をCOD（75%値）で見ると、測定地点8地点のうち境港市昭和町防波堤陸台の北方0.2km地点（2.8 mg/ℓ）で環境基準に適合していないが、他の地点は環境基準に適合している。そのほかの項目の環境基準適合率をみると、類型A水域ではDO

36%、油分 100%、大腸菌群数95%、類型B水域ではDO、油分とも100%の適合率である。

水質の変化を見ると、前年度に比べて、同程度であり、経年的に見ても同程度の水質で推移している。

表72 測定結果

調査地点番号 及び地点名	指定 類型	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	油分 (mg/l)	元年度 COD (mg/l)
① 境港市昭和町防波堤 燈台の北方0.2km	A	12	8.3	7.5	2.2 (2.8)	$<1.8 \sim 1.1 \times 10^3$	ND	2.2
② 境港市福定町地先 沖合1.0km	B	12	8.2	7.3	1.5 (1.6)	$<1.8 \sim 2.3 \times 10^2$	ND	1.7
③ 境港市福定町地先 東方4.0km	A	12	8.2	7.3	1.3 (1.6)	$<1.8 \sim 2.6 \times 10^2$	ND	1.4
④ 米子市大篠津町地先 沖合0.5km	A	12	8.2	7.2	1.3 (1.6)	$<1.8 \sim 4.3 \times 10$	ND	1.5
⑤ 米子市皆生地先 0.5km	A	12	8.2	7.2	1.4 (1.5)	$<1.8 \sim 2.5 \times 10^3$	ND	1.4
⑥ 日野川河口地先 北方1.0km	A	12	8.2	7.3	1.4 (1.6)	$<1.8 \sim 6.6 \times 10^2$	ND	1.5
⑦ 日野川河口地先 北東方1.0km	A	12	8.2	7.4	1.6 (1.9)	$<1.8 \sim 1.7 \times 10^3$	ND	1.9
⑧ 淀江町佐陀地先 0.5km	A	12	8.2	7.2	1.8 (1.9)	$<1.8 \sim 2.5 \times 10^3$	ND	1.8

()内は75%値 ND 検出されず

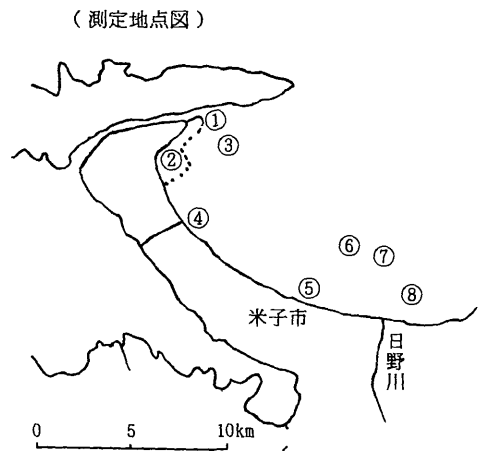
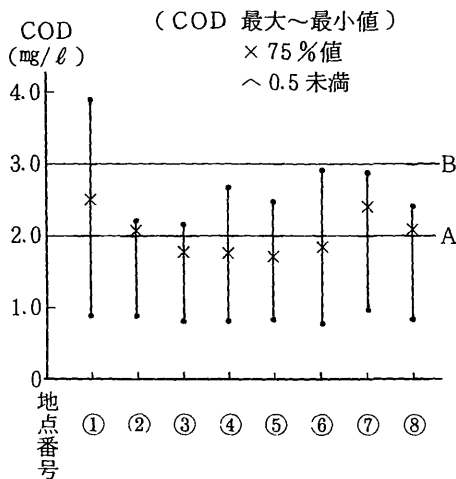


表73 経年変化

水域名	地点名	COD年平均値 (mg/l)					
		S 60年度	S 61年度	S 62年度	S 63年度	H 1年度	H 2年度
美保湾	8地点	0.9~1.5	1.1~1.9	1.2~2.2	→ 1.2~2.7	1.4~2.2	1.3~2.0

(イ) 日本海沿岸海域

日本海沿岸海域は、海域類型Aの環境基準が定められている。水質測定は、距岸1kmの8地点で行ったが、8地点のCOD(75%値)は0.5~1.1mg/lですべて環境基準に適合している。また、本海域では油分も不検出であり、清浄な水質を維持している。

平成2年度に開設された20海水浴場について見ると、全海水浴場について各3回ずつ(宇野海水浴場のみ2回)水質調査を行った結果、透明度1m以上、COD20mg/l以下、ふん便性大腸菌群数50個/100ml以下、油分NDとすべて「鳥取県海水浴場整備促進要綱」で定める水質基準に適合しており、環境庁の海水浴場判定基準の水質AA~A(旧「快適」ランク)の水質となっている。

表74 測定結果

調査地点名	指定 類型	測定 日数	pH	DO (mg/l)	COD (mg/l)	大腸菌群数 (MPN/100ml)	油分 (mg/l)	平成元年度 COD (mg/l)
岩美町浦富地先 1.0km	A	3	8.1	6.5	1.0(1.1)	<18~45	ND	<0.5
福部村湯山地先 1.0km	A	3	8.1	6.4	0.7(0.8)	<18~6.8	ND	1.2
鳥取市堀越地先 1.0km	A	3	8.1	6.5	0.6(0.8)	<18~40	ND	1.1
気高町八幡地先 1.0km	A	3	8.1	6.5	0.7(0.9)	<1.8~2.0	ND	1.2
泊村泊地先 1.0km	A	3	8.1	6.4	0.7(0.9)	<18	ND	1.2
北条町松神地先 1.0km	A	3	8.1	6.4	0.6(0.7)	<18~2.1×10	ND	0.6
大栄町大谷地先 1.0km	A	3	8.1	6.3	0.5(0.5)	<1.8~6.1	ND	1.1
中山町御崎地先 1.0km	A	3	8.1	6.3	0.5(0.6)	<18~7.8	ND	1.1

()内は75%値 ND 検出されず

表75 経年変化

水域名	地点名	COD年平均値(mg/l)					
		S60年度	S61年度	S62年度	S63年度	H1年度	H2年度
日本海沿岸	8地点	0.6~0.8	<0.5~1.3	<0.5~0.7	<0.5~0.6	<0.5~1.3	<0.5~1.0

表 76 海水浴場水質調査結果

海水浴場名	採水地点数	採水回数	測定項目				
			透明度 (m)	pH	COD (mg/l)	油分 (mg/l)	ふん便性大腸菌群数 (個/100ml)
東浜海水浴場	6	3	>1	8.3	0.7~1.2	ND	<2
小羽尾海水浴場	3	"	>1	8.3	0.8~1.6	ND	<2
羽尾海水浴場	3	"	>1	8.3	0.7~1.4	ND	<2
牧谷海水浴場	3	"	>1	8.3	0.8~1.5	ND	<2
浦富海水浴場	5	"	>1	8.3	0.8~1.3	ND	<2
大谷海水浴場	開設せず	-	-	-	-	-	-
岩戸海水浴場	3	3	>1	8.3	0.9~1.2	ND	<2
砂丘海水浴場	3	"	>1	8.3	0.8~1.1	ND	<2
賀露海水浴場	3	"	>1	8.3	0.9~1.1	ND	<2
白兔海水浴場	4	"	>1	8.3	0.9~1.0	ND	<2
小沢見海水浴場	2	"	>1	8.3	0.8~1.0	ND	<2
水尻海水浴場	2	"	>1	8.3	0.8~1.3	ND	<2
浜村海水浴場	3	"	>1	8.3	0.7~1.2	ND	<2
浜村西海岸海水浴場	開設せず	-	-	-	-	-	-
青谷海水浴場	2	3	>1	8.3	0.6~1.6	ND	<2
井手ヶ浜海水浴場	4	"	>1	8.3	1.0~1.1	ND	<2
バームヒーチミナセ	開設せず	-	-	-	-	-	-
小浜海水浴場	開設せず	-	-	-	-	-	-
石脇海水浴場	3	3	>1	8.1~8.2	0.5~1.0	ND	<2
宇谷海水浴場	3	"	>1	8.1~8.2	<0.5~0.6	ND	<2
宇野海水浴場	3	2	>1	8.1~8.2	<0.5~1.0	ND	<2
ハワイ海水浴場	3	"	>1	8.1~8.2	<0.5~0.8	ND	<2
八橋海水浴場	3	"	>1	8.1~8.2	0.6~1.3	ND	<2
皆生温泉海水浴場	3	2	>1	8.0~8.2	1.3~1.6	ND	4~19

ND: 検出されず

(日本海沿岸海域測定地点図)

